

学校生活についてのアンケート調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査目的

学校生活についてのアンケート調査は、各学校においては、児童生徒の実態を把握し、いじめの未然防止や早期発見・早期解決につなげることを、教育委員会においては、藤沢市全体の傾向を把握して今後の施策に反映することを目的として、全市立小・中学校の児童生徒を対象に実施しています。

(2) 実施時期 2025年6月～7月

(3) 調査対象 全市立小・中学校児童生徒

小学生（単位：人）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	回答率
3,508	3,671	3,786	3,852	3,838	3,826	22,481	97.9%

中学生（単位：人）

1年	2年	3年	計	回答率
3,473	3,529	3,494	10,496	91.8%

※回答率は令和7年調査実施日現在の学校から報告があった児童生徒在籍数に対する回答数の割合です。

※欠席者等がいるため、回答率は100%になっていません。

(4) 調査・回収方法 無記名または記名で回答し、記入後その場で回収 Google フォームを活用した電子版での回答も実施

(5) 調査内容 「学校生活についてのアンケート」

原則として、2020年より設問内容を同内容としています。

今回の調査で変更した点は次の2点です。

- ①設問6「嫌なことを誰かに相談しましたか」に関わる箇所を変更しました。
 - ・選択肢に「相談しようと思っている」を追加しました。
 - ・「相談していない」と答えた児童生徒が、設問8で理由を記述できる枠を設けました。
- ②設問13について、困っていることがあれば具体的に書けるよう、チェック項目を設けました。

2 調査結果の分析の観点

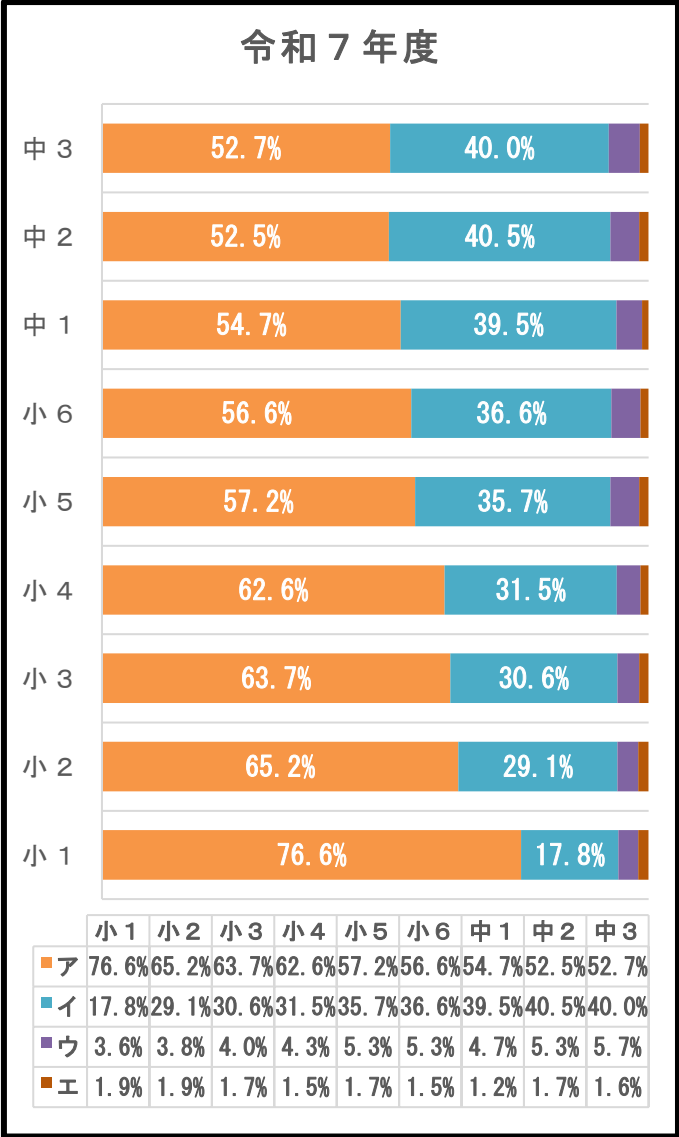
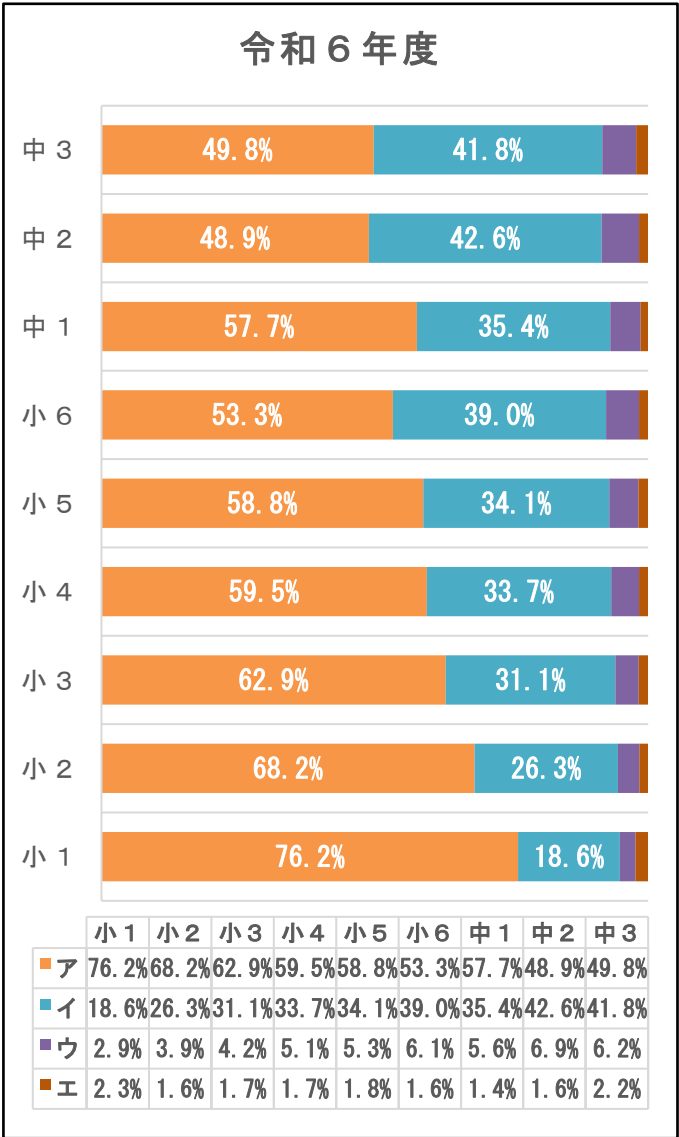
(1) 児童生徒の学年別での実態把握と、昨年度の状況との比較

(2) 嫌な思いをしている児童生徒と嫌な思いをさせた児童生徒、嫌な思いをしている児童生徒を見たり聞いたりした児童生徒の割合

3 調査結果の分析

※小数点以下第2位を四捨五入しているため、集計値の合計は必ずしも100%とならない場合があります。

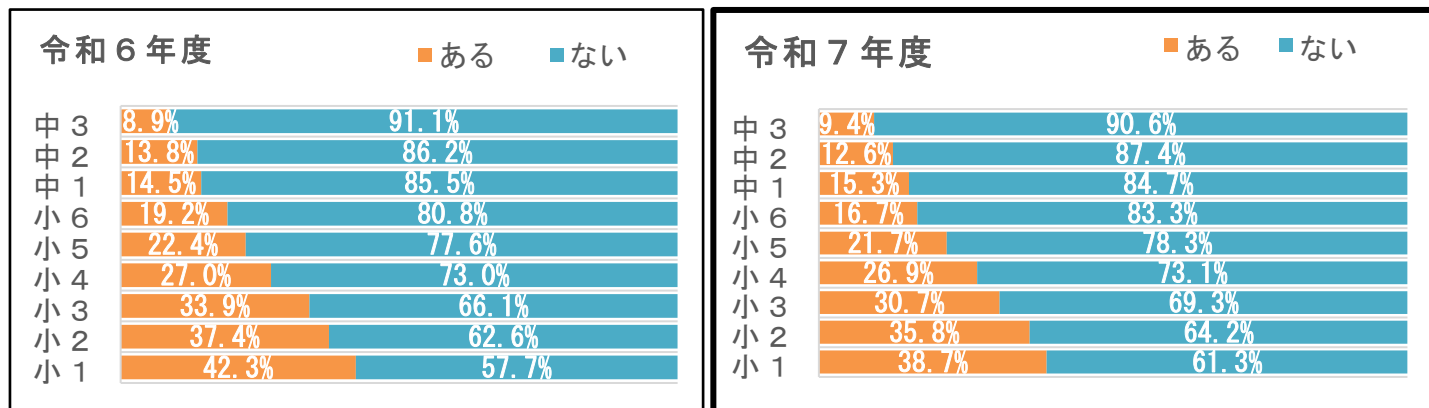
(1) 学校は楽しいですか。



ア 楽しい イ まあまあ楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない

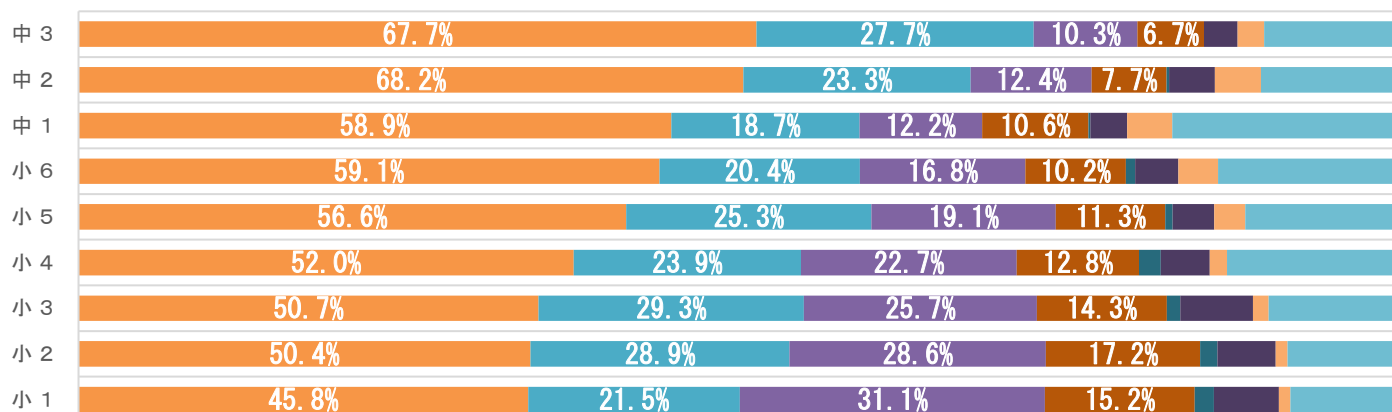
令和7年度において、学校が「楽しい」「まあまあ楽しい」と回答した児童生徒は、すべての学年で90%以上となっている。「楽しくない」の数値が最も高い学年は、小学校は小1・2、中学校は中2となっており、小2と中2は令和6年度よりも高い割合となっている。また、小・中学校いずれにおいても、「楽しい」と回答した児童生徒の割合は、1年生が最も高くなっている。

(2) 学校生活の中で、周りの人からされたことで、嫌な気持ちになったことがありますか。



(3) (2) で「ある」と答えた人で、周りの人からされた嫌なことで、あてはまるものをすべて選びましょう。※複数回答可

* (2) の設問で「ある」と回答した児童生徒数をもとに計上

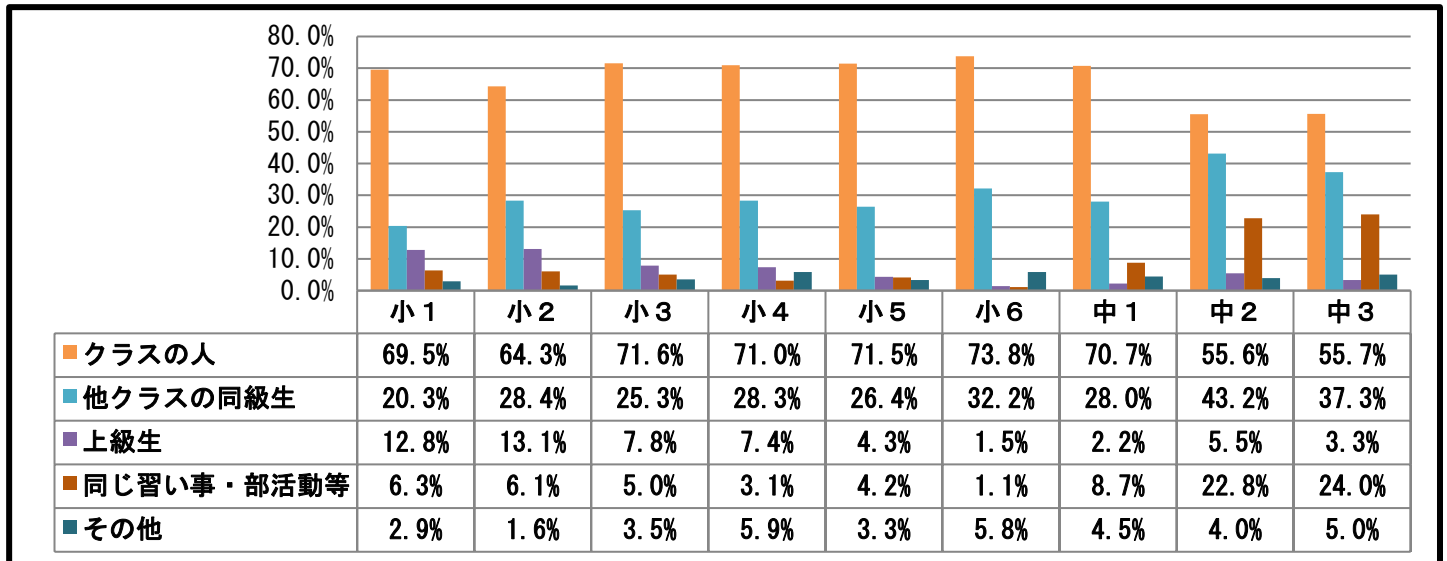


「嫌な気持ちになったことがありますか」という設問において、「ある」と回答した児童生徒の割合は、昨年度同様に、概ね学年が上がるにつれて低くなる傾向にある。

その種類では、すべての学年で「冷やかし、からかい、悪口」が最も多くなっている。次いで、「仲間外れ、無視」、小学校では「殴られる・蹴られる」も高い数値になっている。「パソコン・スマホ等」は、小5からの割合が上がっている。

その他には、「にらんできた」「認めてないあだ名で呼ばれた」「ぶつふりをして脅された」「中指を立てられた」「こそこそ話」「嘘の情報を流された」「自分のものを勝手に触られた」「ついてくる」「授業妨害」等があげられた。

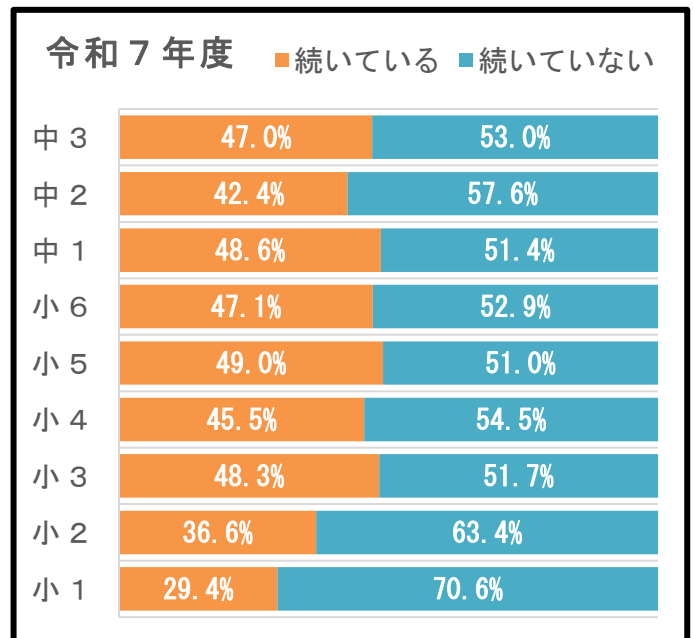
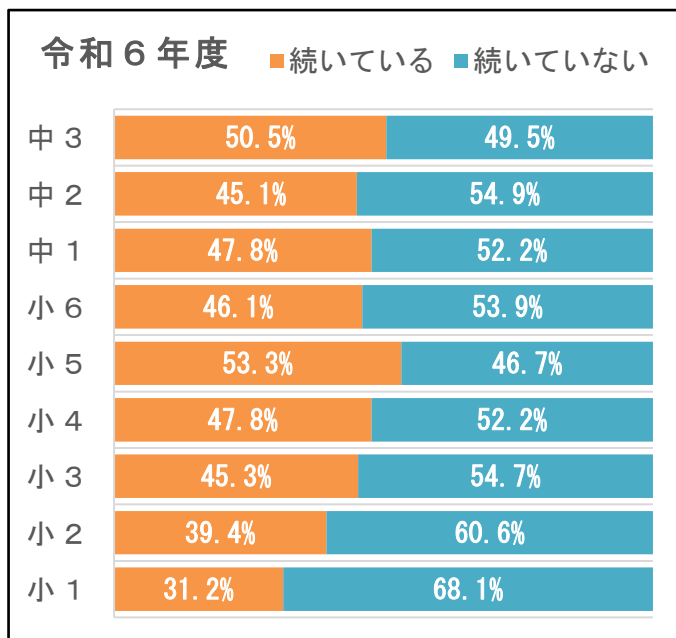
(4) 嫌なことを誰からされましたか。※複数回答可



(2) の設問で、「嫌な気持ちになったことがある」と回答した児童生徒のうち、「クラスの人」にされたと回答した割合が最も多く、続いて「他クラスの同級生」となっている。また、小1・小2では、「上級生」と回答した割合が、他の学年に比べて高く、中学校では、「同じ部活の人」と回答した生徒の割合が高くなっている。

その他には「下級生」「学童の人」「同じ塾の人」「他校の人」「インターネットで知り合った人」「知らない人」等があげられた。

(5) (3) のことは今も続いていますか。

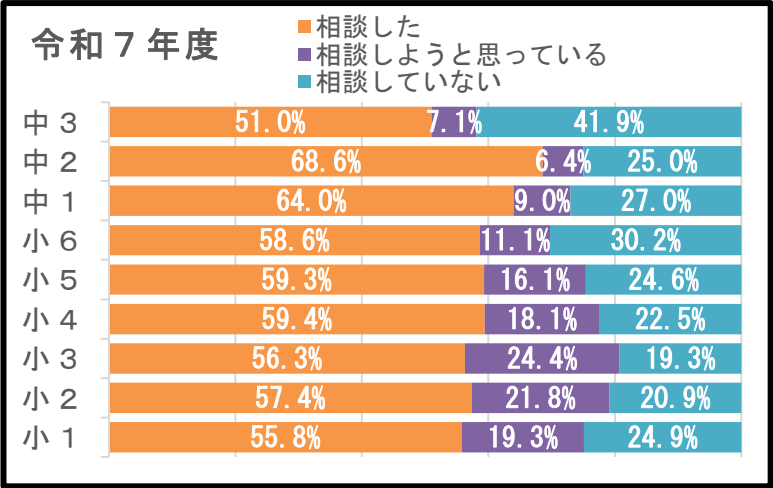
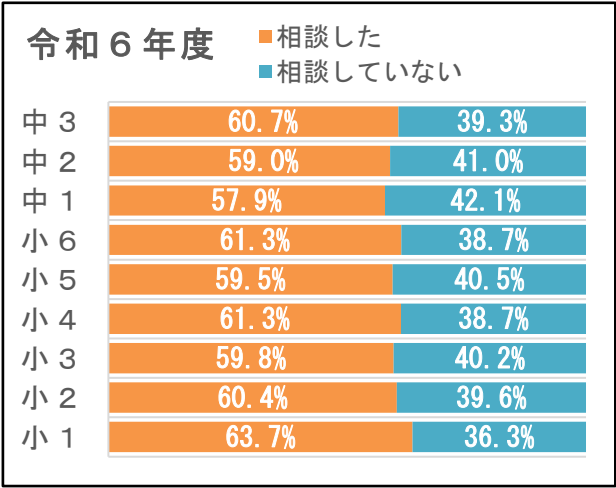


「続いている」と回答した割合が最も高かったのは小5で、「続いていない」と回答した割合が最も高かったのは小1であった。

特に小3以上は、半数近くの児童生徒が「続いている」と回答している。

(6) 嫌なことを誰かに相談しましたか。

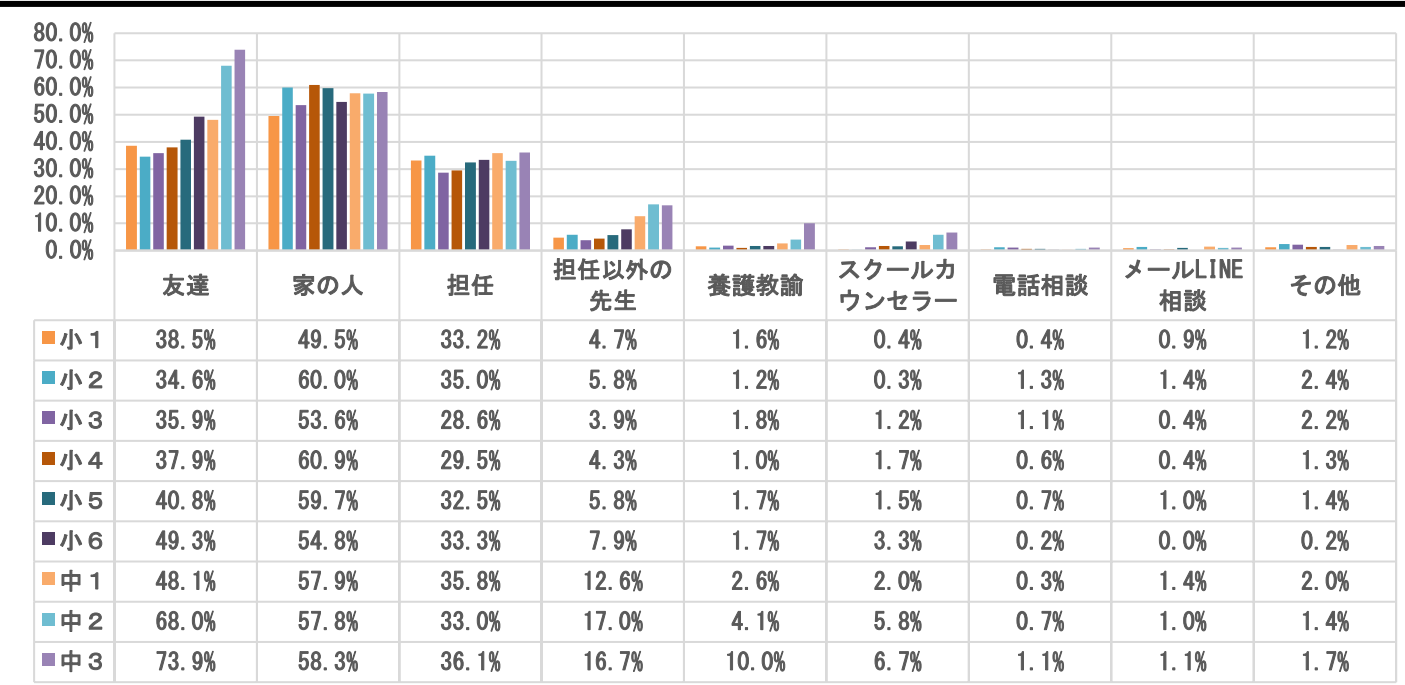
※選択肢に「相談しようと思っている」を新たに追加



今年度から「相談しようと思っている」という項目を設けた。「相談した」と回答した割合は5～7割だが、相談していない児童生徒の中にも、「相談しようと思っている」児童生徒も一定数いた。

「相談していない」理由は、「自分で解決したい」「すごく困ってはいない」「気にしていない」「誰に相談していいかわからない」「大事にしたくない」「心配かけたくない」「ばれたら怖い」などの記述があった。

(7) (6)で、「相談した」「相談しようと思っている」と答えた人に聞きます。「相談した」「相談しようと思っている」相手にあてはまるものをすべて選びましょう。※複数回答可

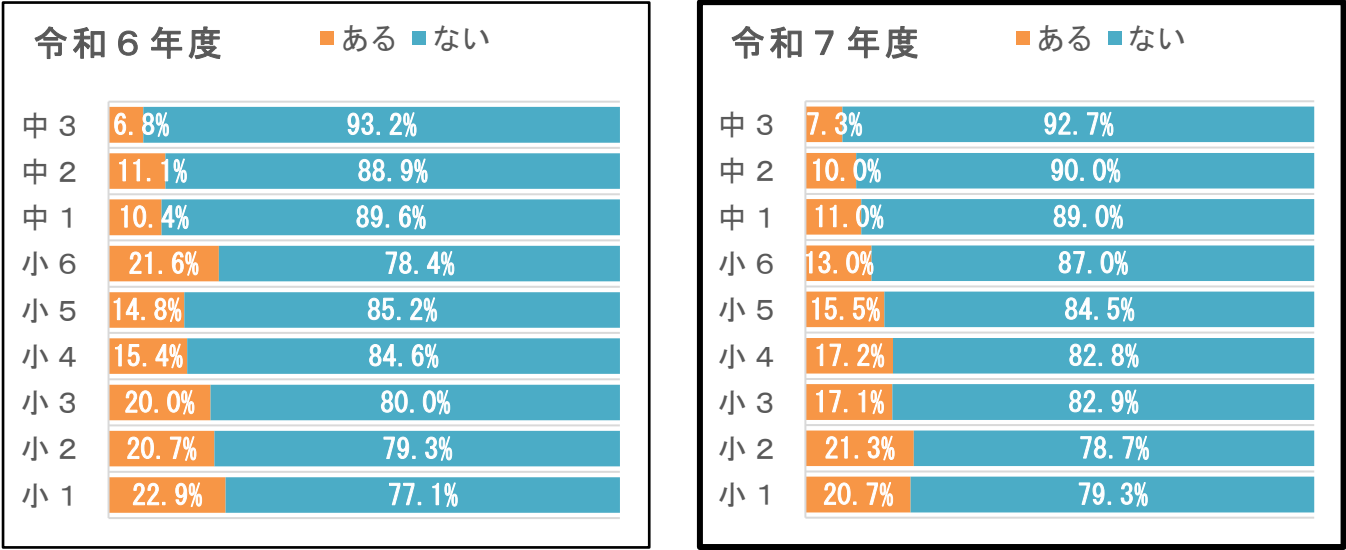


相談相手としては、小学校では「家の人」が最も多く選ばれ、学年が上がるにつれて「友達」の割合が増え、中2・中3は約70%となっている。

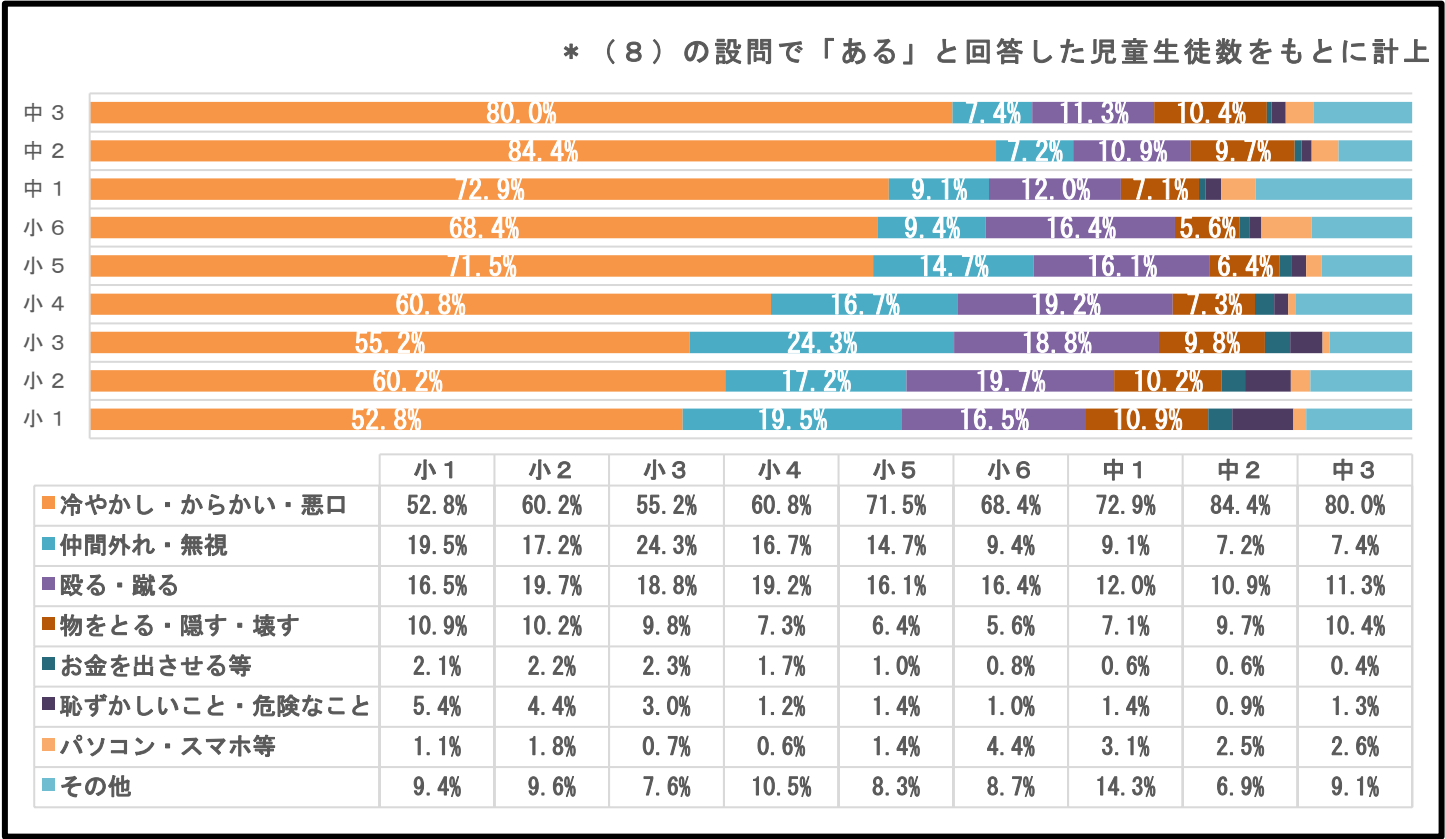
中学校では「担任以外の先生」に相談する生徒の割合が小学校に比べると多くなっている。

なお、その他には、「上級生」「学童の先生」「対話型生成AIサービス」「ネット上の友だち」「友だちの保護者」「習い事の先生」「小学校の担任（中学生）」等が含まれている。

(9) あなたは周りの人が嫌な気持ちになるようなことを言ったり、したりしたことがありますか。



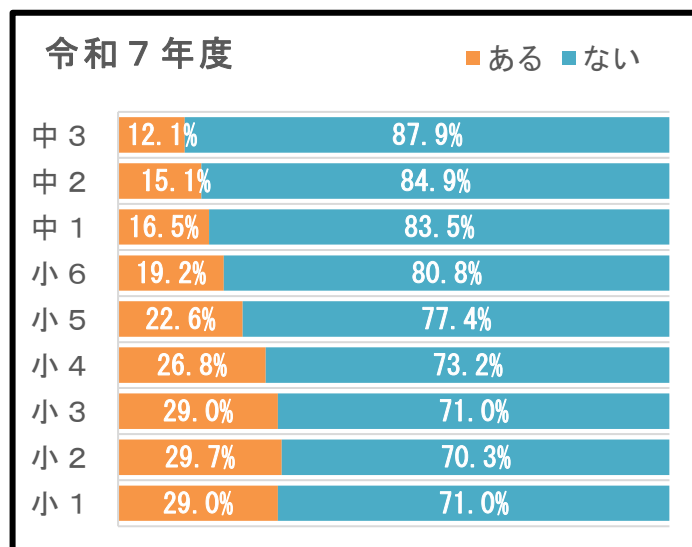
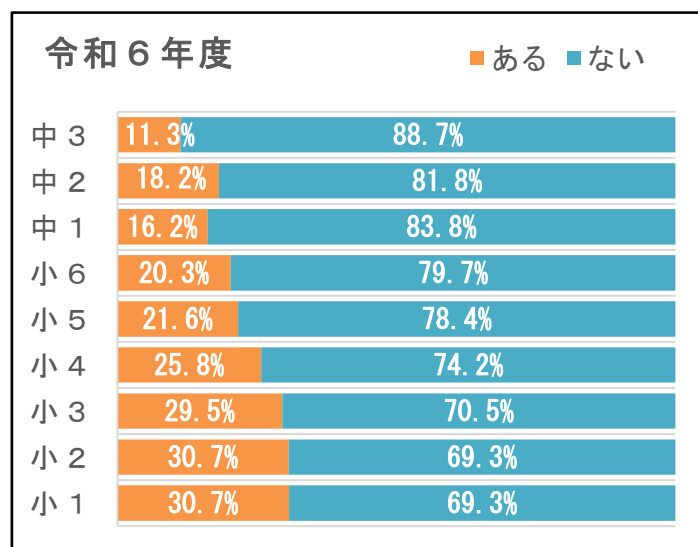
(10) (9)で、「ある」と答えた人に聞きます。あなたが周りの人に言ったり、したりしたことにあてはまるものをすべて選びましょう。あてはまるものがない場合には、「その他」を選んで、くわしく書いてください。※複数回答可



学年が上がるにつれ、「言ったりしたりした」の割合は概ね低くなる傾向にある。昨年度と比較すると、小6の「言ったりしたりした」の割合は減少している。具体的な行為としては、どの学年も「冷やかし、からかい、悪口」が最も多く、他には小学校は「仲間外れ・無視」「殴る・蹴る」が多いが、学年が上がるにつれて減少傾向にある。また、「パソコン・スマホ等」は小6から増加傾向にある。

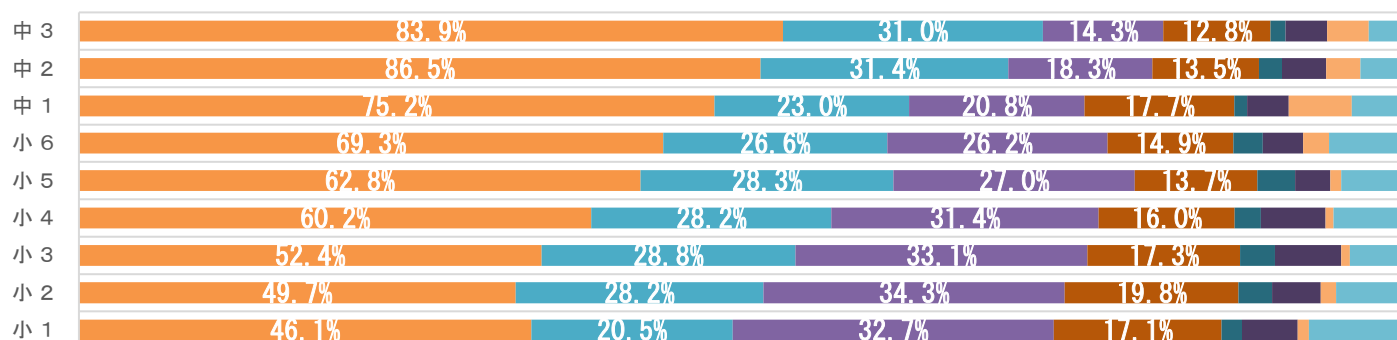
その他には「苦手な人に嫌な態度を取ってしまった」「やられたから自分もやり返した」「言い過ぎた」「自分に悪気はなくても、相手を傷つけてしまっているかもしれない」「ストレスを他の人にぶつけた」「人のものを触った」等があげられた。

(11) 嫌なことをしている人を見たり聞いたりしたことがありますか。



(12) (11)で「ある」と答えた人に聞きます。見たり聞いたりしたことについてあてはまるものをすべて選びましょう。あてはまるものがない場合には、「その他」を選んで、くわしく書いてください。※複数回答可

* (10)の設問で「ある」と回答した児童生徒数をもとに計上

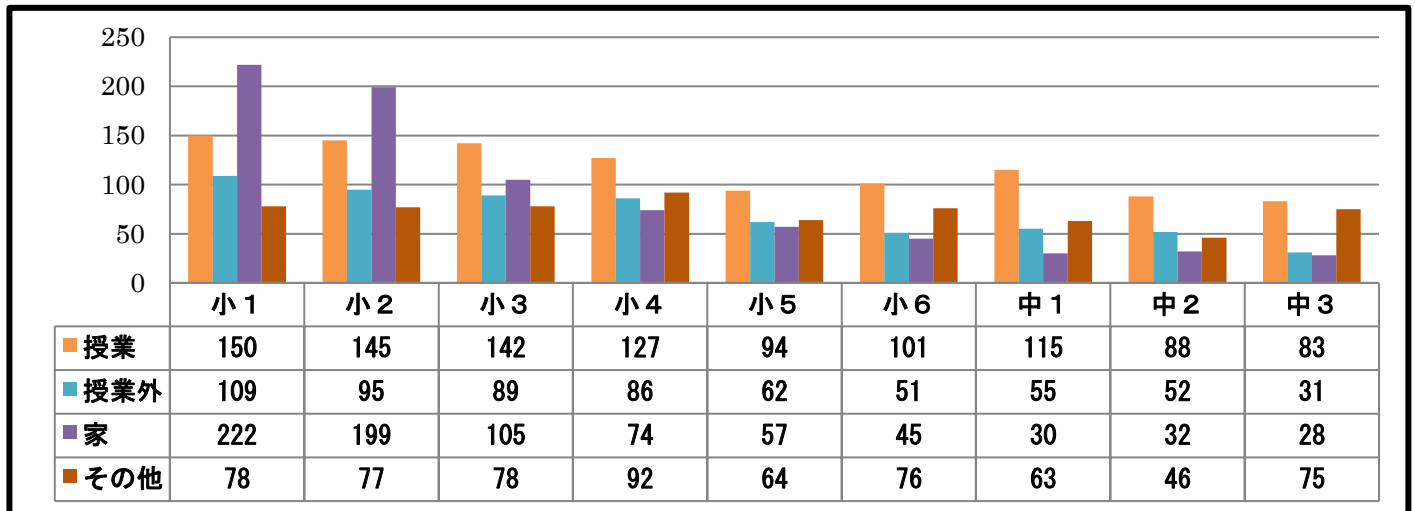


	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
冷やか・からかい・悪口	46.1%	49.7%	52.4%	60.2%	62.8%	69.3%	75.2%	86.5%	83.9%
仲間外れ・無視	20.5%	28.2%	28.8%	28.2%	28.3%	26.6%	23.0%	31.4%	31.0%
殴られる・蹴られる	32.7%	34.3%	33.1%	31.4%	27.0%	26.2%	20.8%	18.3%	14.3%
物をとられる・隠される・壊される	17.1%	19.8%	17.3%	16.0%	13.7%	14.9%	17.7%	13.5%	12.8%
お金を出させられる等	2.1%	3.8%	3.9%	3.1%	4.2%	3.5%	1.5%	2.9%	1.8%
恥ずかしいこと・危険なこと	5.7%	5.5%	7.5%	7.6%	4.0%	4.8%	5.0%	5.6%	4.9%
パソコン・スマホ等	1.1%	1.7%	1.0%	0.9%	1.2%	3.1%	7.4%	4.4%	4.9%
その他	9.4%	7.5%	5.9%	8.0%	6.7%	8.6%	5.9%	5.2%	3.9%

学年が上がるにつれ、「見たり聞いたりした」の割合は概ね減少している。どの学年も「冷やか、からかい、悪口」が多く、次に小学校では「殴られる、蹴られる」が多く、中学校では「仲間外れ、無視」が多い。「パソコン・スマホ等」での嫌がらせを見たり聞いたりした割合は、小6からの割合が上がっている。

その他には、「強く言われていた」「にらまれていた」「中指を立てられていた」「菌つけ遊び」「秘密をバラされる」「スキンシップをしてくる人を少し避けている」「下級生から必要以上につきまといわれる」等があげられた。

(13) その他に、困っていることなどありますか。あれば、あてはまる□（授業・授業以外・家・その他）に✓を入れて、下の枠に自由に書いてください。※複数回答可（単位：人）



自由記述（※一部抜粋）

小学校	中学校
授業 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強がわからない。（算数の記述多数） ・授業が難しくなつてついていけない。 ・授業中うるさくて集中できない。 授業以外 <ul style="list-style-type: none"> ・暑くて登校が憂鬱。／暑くて疲れる。 ・持ち物を友だちに触られる。 ・野菜が苦手で給食が食べられない。 ・名前とかで替え歌してくる。 ・先生ごとにルールが違うから統一してほしい。 家 <ul style="list-style-type: none"> ・親に強く言われる。・親が褒めてくれない。 ・父母がけんかしているのがいやだ。 ・きょうだいから暴力、いじわるされる。 ・親が寝ていて、家事をしてくれない。 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・友だちとの距離感に困っている。 ・習い事が多くて休憩時間がほしい。 ・学童で物を取られた。 ・先生方が疲れているので、休んでほしい。 	授業 <ul style="list-style-type: none"> ・授業が難しい。ついていけない。 ・授業中にうるさい人がいる。集中できない。 ・授業態度悪い人がいる。 授業以外 <ul style="list-style-type: none"> ・勉強と部活の両立が大変で難しい。 ・部活動の悩み（プレー、部員について） ・受験、進路について。 ・友人との関わり。友だち作りが難しい。 ・起立性調節障害へ配慮してほしい。 家 <ul style="list-style-type: none"> ・家族（両親など）がケンカをしていて嫌だ。 ・きょうだいに暴力ふるわれる。 ・家の中でも安心感がないときがある。 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・塾での悩み。 ・スマホ中毒である。 ・男女差別がきつい。 ・なぜか不安を感じてしまう。

小・中学校ともに、「授業が難しい」「ついていけない」「うるさくて集中できない」等の授業の様子や学習に関する記述が多くみられた。また、友だちとの関わり方等の悩みに関する記述や、親やきょうだいからの暴言や暴力、関わり方等、家庭内での悩みに関する記述も多くみられた。

小学校では、習い事や学童でのトラブル等の悩みがみられた。中学校では、部活動に対する悩みや不安（自身についての悩み、人間関係等）や受験・進路に関する悩み等がみられた。

4 調査結果の考察

- (1) 設問2の「嫌な気持ちになったことがありますか」では、「ある」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて減っています。設問9の「人が嫌な気持ちになることを言ったりしたりしましたか」でも、概ね同様な傾向がみられました。しかしながら、設問2と設問9の割合を比べると、小6から中3では、その差異は小さいものの、小1から小5では、大きな差異となっています。自分は嫌なことを言ったつもりがなくても、相手にとっては嫌だと感じる場合があり、感じ方がそれぞれ違うということに気付けるよう、小学校低学年のうちから人権意識を高める必要があります。
- (2) 設問2の「嫌な気持ちになった」という内容において、「パソコン、スマートフォンなどで嫌なことをされた（SNS、ゲーム、学校のパソコン等）」を選択した割合は、概ね学年が上がるにつれ増えています。特に今回の調査では小学5・6年生から割合が上がっていることがわかりました。子ども達の日常において、スマートフォンの使用やSNS等でのやりとりが当たり前になっていることを踏まえ、周りから見えづらく、相談しにくいものとして、今後さらに増えることが懸念されます。これまで以上に、関係機関との連携を含めた情報モラル教育や心の教育を家庭とも連携して充実させていく必要があります。
- (3) 設問4の「嫌なことを誰からされましたか」では、どの学年においても「クラスの人」という割合が半数以上を占めています。学校においては、クラスにおける人間関係づくりやいじめ防止の取り組みを系統立てて行うこと、さらに担任だけでなく学校全体で組織的に未然防止に努めることが大切です。また、中学校では、「同じ部活動の人」と回答した生徒が、小学校の「同じ習い事等の人」と回答した児童と比べ、割合が高くなっています。これは、部活動が人間関係形成の場として子どもにとって大きな影響があると考えられます。いじめ防止対策は、学校内だけでなく、家庭や地域、関係機関等とも連携して取り組む必要があります。
- (4) 設問5の「嫌なことは今も続いていますか」において、小学校3年生以上では「続いている」と半数近くの児童生徒が回答しています。各学校は、「学校いじめ防止基本方針」に則り、対応するとともに、継続的な支援を行っていくことが重要です。設問6において、「相談していない」という子も2～4割程度いることから定期的なアンケートの実施や面談等を行い、実態の把握や指導体制の見直し等に努める必要があります。また、「SOSの出し方教育」に、しっかり取り組むとともに、児童生徒が相談できる窓口について、子どもたちが利用しやすい形で周知していく必要があります。
- (5) 設問6において「相談した」「相談しようと思っている」と回答した児童生徒の「相談相手」として、小学校では「家の人」が最も多く選ばれ、学年が上がるにつれて「友達」の割合が増えています。また、「担任」「担任以外の先生」「養護教諭」「スクールカウンセラー」の割合の合計を見ると、学校内にいる相談相手に相談した割合は、小学校ではおよそ4割、中学校では5～7割程度いることが分かります。「相談しなかった」理由については、「自分で解決したい」「すごく困ってはいない」「気にしていない」という回答の他に、「誰に相談していいかわからない」「大事にしたくない」「心配かけたくない」「ばれたら怖い」と相談につなげていく必要があると考えられる回答もみられます。相談につなげるには、日頃から家庭との連携を心がけ、学校内外問わず幅広く児童生徒のSOSをキャッチする体制を構築することが大切です。児童生徒の相談を受けた際には、速やかに校内のいじめ防止対策委員会等、組織で情報を共有し、家庭と協力しながら丁寧に対応するとともに、状況によっては関係機関等とも連携していく必要があります。

- (6) 設問13の「困っていることなど」において、昨年に引き続き、家族の不仲や身内からの暴力等、家庭内のトラブルについての記述が一定数ありました。また、学校の授業の進度が速い、内容が難しい、教室が騒々しく集中できない等、授業における不安や不満もみられます。中学校では、部活動に対する不安や進路についての悩み等もみられます。児童生徒が一人で抱え込むことのないよう、相談しやすい環境づくりや相談先の周知、必要に応じて、関係機関や専門家につなげる等の相談支援体制の更なる構築に努め、安全安心な学校生活を送れるようにする必要があります。

5 今後の取組

子どもの心を育てることは、豊かな人間関係を築くうえで欠かせません。多様な個性や特性、背景を有する子どもたちが自己肯定感や自己有用感を持ち、互いの存在を認め合いながら、ともに支えあうためにも、一人ひとりをかけがいのない存在として尊重できる心を育むことが、いじめの未然防止につながります。

いじめの問題については、「藤沢市いじめ防止対策基本方針」及び各学校の「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校と教育委員会、関係機関が連携し、更なるいじめの未然防止や早期発見・早期対応に取り組めます。また、*藤沢市いじめ問題対策連絡協議会や、**学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）などを通して、学校・教育委員会・保護者・地域・関係機関が連携を深め、社会全体でいじめ問題について取り組んでいけるような体制づくりに努めてまいります。

* いじめ防止等に関係する機関及び団体の連携を図るため、平成26年より設置。

**保護者や地域の方が学校の応援団として、学校運営に参画する制度。

- (1) 学校は、児童支援担当教諭、生徒指導担当を中心に、「学校いじめ防止基本方針」に則って、学校内において情報を共有し、組織として支援指導していくことが重要になるため、スクールカウンセラーや関係機関を活用し専門的な助言を受けながら、さまざまな課題を抱える子どもたち一人ひとりのニーズに応じた対応を行います。
- (2) 学校は、「特別の教科 道徳」をはじめ、教育活動全体を通して、「自分を大切にするとともに、他の人を大切にすること」という思いやりや寛容な心、他者の権利を認め尊重するという人権意識と、自分の行動を律する規範意識を育むことができるよう、組織的かつ計画的な指導に努めます。
- (3) 学校は、児童生徒が安心でき、楽しく充実感を得られる場になることが肝要です。そのためには、児童生徒が安心できる心の居場所となるよう教職員全体で「居場所づくり」を進めるとともに、児童生徒が授業をはじめ教育活動全体において主体的・協働的な活動を通して互いを認め合い、絆を紡ぎ合えるような視点を大切にした魅力ある学校・学級づくりに努めます。教育委員会では、長期休業等などの教職員研修や、学校訪問など、様々な機会をとらえて、学校がより良い授業づくりや居場所づくり・絆づくりに取り組めるよう支援してまいります。
- (4) 学校では、困っている子どもを守る姿勢を示し、安心して相談できるような信頼関係の構築に努め、児童生徒が相談しやすい環境をつくることが大切です。周囲に相談できず困っている児童生徒を早期に発見し、適切に対応していくためにも、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等心理や福祉の専門職と連携して支援に努めます。

- (5) 教育委員会では、一般財団法人LINE みらい財団と連携し、「GIGA ワークブックふじさわ」を作成、各学校に配付するとともに保護者にも教育委員会から保護者連絡ツール「すぐーる」を使って直接周知しています。今後は、担当者会等で「GIGA ワークブックふじさわ」の活用を促進したり、児童生徒が活用しやすいように学習用端末のL-Gateに掲載したり、「家庭でのルールを考えよう」など保護者向けに作成したページの活用を啓発するなど、学校と連携した情報モラル教育の推進に努めます。
- (6) 教育委員会では、全児童生徒に相談機関紹介カードを配付し、相談先の周知に努めるとともに、学習用端末のL-Gateにグーグルアカウントを活用した「藤沢市子ども相談フォーム」の入り口を表示し、悩みを相談できない児童生徒が、対面での相談につながるよう、相談体制の充実を図ります。
- (7) 教育委員会では、教職員のいじめに対する意識や対応力を高めるために、スクールロイヤーや、いじめ防止対策担当スクールカウンセラーによる研修会を充実させます。児童支援担当教諭、生徒指導担当といった各校でいじめ防止担当の中心になる教職員に対してもいじめ防止担当者会等を実施します。今回の調査結果を学校にも情報提供しながら、情報モラル教育など、学校が抱える課題に対応するために、外部講師や関係機関とも連携しながら、各担当者会の充実を図ります。